

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2020年12月)

1 ポイント

【内政】

- 1日及び16日、新型コロナウイルス感染者増加に伴う新たな措置の発表。
- 6日、バスケス前大統領が肺がんにより逝去。
- 10日、5か年予算案が可決。
- 15日、森林開発に関する法案が下院議会を通過。
- 15日、ラカジェ・ポウ大統領は男性同性愛者の献血を可能とする政令に署名。
- 19日、集会の権利の制限及び入国禁止措置に係る法案の成立。
- 23日及び30日、入国禁止措置に新たな例外を規定する政令の公布。

【外交】

- 1日から7日にかけてEU及びロシアを訪問したブスティージョ外務大臣は、ラブロフ露外務大臣(1日)、ウィルメス・ベルギー副首相兼外務大臣(3日)、ボレルEU外務・安全保障政策上級代表、ドンブロウスキス欧州委員会副委員長(4日)、リーステール仏外務省貿易担当大臣(6日)、アズレー・ユネスコ事務局長(7日)とそれぞれ会合を実施。
- 7日、ウルグアイ外務省は6日にベネズエラで行われた議会選挙が民主主義の原則と価値観に従って実施されず、透明性の最低限の保証が欠如していたとして批判。
- 9日、第2回ウルグアイ・チリ・FTA管理委員会会合がオンライン形式で実施。
- 16日、第57回メルコスール首脳会議がオンライン形式で開催。
- 16日、共和国大学とラプラタ川管理委員会の協力連携協定が調印。
- 22日、農牧水産省はラセンウジバエ根絶のための米国政府からの支援について発表。

2 本文

【内政】

1 バスケス前大統領逝去

6日午前3時、バスケス前大統領が肺がんのためプラド地区にある自宅で逝去した。2019年8月20日、バスケス大統領(当時)は記者会見で右肺に悪性腫瘍が見つかった旨公表。放射線治療後、経過が良好であったため定期診療を受けつつ引き続き公務を継続する旨発表し、2020年3月1日、大統領の任期を全うし、独立広場で開催された大統領交代式ではラカジェ・ポウ大統領に大統領綬を渡した。

2020年11月28日、医者で息子のアルバロ・バスケスは、バスケス前大統領は左脚に血栓症を患っているが容態は安定している旨発表。12月2日には、同血栓症は快方に向かうも腎不全などの合併症を患っている旨発表した。6日午前3時、プラド地区の自宅で親族に見守られて息を引き取った。

6日、朝6時頃からバスケス前大統領逝去のニュースが知れ渡ると、前大統領宅前には花、拡大戦線(FA)の旗、メッセージを書いたプラカードを捧げる国民が数多く訪れた。新型コロナウイルス感染症に伴い、同前大統領親族は一般弔問を実施しない旨発表。告別式には親族以外の政治関係者では、ラカジェ・ポウ大統領、アルヒモン副大統領、コッセ・モンテビデオ県知事のみが参列した。同日13時、バスケス前大統領の棺を乗せた車両がラ・テハ地区の墓地に向かうと、車道及び墓地前にはFAの旗、前大統領がかつて代表を務めたサッカーチーム「プログレソ」の旗、プラカードを持った国民が集まり最後の別れを惜しんだ。

ラカジェ・ポウ大統領は、6日から8日までの3日間を国喪期間とし、国内外の政府機関では半期掲揚とする旨発表した。

2 議会関連

(1)5か年予算案の可決

10日、上院議会で2日に可決され、法案に修正が加えられたため下院で再審議となっていた5か年予算案が下院議会で可決された。アルベレチェ経済財務大臣は報道陣に対し、非常に満足のいく前向きなプロセスであったと述べ、予算に関する議論からは常に前向きな要素が生まれる旨強調した。また、5か年予算案と緊急検討法の2つが、経済と全てのウルグアイ人に変化をもたらす非常に重要な拠り所となる旨付言した。

(2)下院で森林開発に関する法案が可決

15日、カビルド・アビエルト党が提出した植林を規制する法案が野党拡大戦線(FA)及び急進エコロジスト党(PERI)の賛成票を受け可決された(97票中54票)。右により、連立他政党と意見を異にする法案をカビルド・アビエルト党が野党FAと共に成立させる可能性があることが明らかとなった。連立与党からの批判に対し、カビルド・アビエルト党のマニーニ・リオス議員は、同議題は連立与党が大統領選挙決選投票前に署名した公約には含まれていない旨指摘した。尚、ラカジェ・ポウ大統領は同法案が上院で承認された場合、拒否権を行使する旨示唆した。

(3)集会の権利の制限及び入国禁止措置に係る法案の成立

17日、政府は16日夜にラカジェ・ポウ大統領が発表した新たな措置に関する法案を議会に提出、同法案審議のため上院臨時会が18日9時半、下院臨時会が同日15時に召集された。同法案には集会の権利を保障する憲法第38条及びウルグアイへの入国、滞在及び出国を保障する同第37条の一時的な規制が盛り込まれており、その妥当性が争点となった。18日夕刻、上院は同法案に一部修正を加え可決(31票中18票)、引き続き下院で審議され、19日早朝に成立(95票中56票)、21日に発効した。同法の成立により、12月21日から60日間、集会の権利が制限された他、2021年1月10日までの期間、貨物輸送業者、人道・衛生支援及び2020年12月16日時点で既に入国のための切符を取得している者以外の入国が禁止された。

3 新型コロナウイルス感染者増加に伴う新たな措置

(1)12月1日、新たな措置として2日から18日までの期間、官公庁におけるテレワークの実施、スポーツジム及び屋内でのスポーツ禁止、深夜0時以降のバー、レストランの営業禁止、教育機関の学年末行事の中止等を発表。

(2)16日夜、政府は新たな措置を講じる旨発表。

ア 公衆衛生を明らかに損ねる場合において、集会の権利を制限。

イ 12月21日から1月10日まで、2020年12月16日時点で既に入国のための航空券等を購入しているウルグアイ人及び居住者を除き、ウルグアイへの入国を全経路で禁止。

ウ 12月21日から1月10日まで、あらゆる公共の催しの中止。

エ 例外的に必要な場合を除き、官公庁におけるテレワーク義務化。

オ 正当な理由がある場合を除き、開会式、会議、展示会等の公共部門の幹部の活動の中止。

カ 10人を超える人数で行う私的な会合の禁止。

キ レストラン、バー、パブ等での深夜0時以降の営業禁止。

(3)23日、政府は12月21日から1月10日までの期間ウルグアイへの入国を禁ずる法律に新たな例外を追加する政令を公布。

ア 管理、物流及び調整業務で南極基地から空路で入国する者や同基地に駐留する者の移送

イ 国防省の権限による医療便または同様の性質の航空便で入国または再入国を要する者

(4)30日、政府は12月21日から1月10日までの期間ウルグアイへの入国を禁ずる法律に

新たな例外を規定する政令を公布。

ア 外交関係及び国際貿易に関連する目的で入国する他国政府職員

4 男性同性愛者の献血が可能に

1999年以降、輸血医学規定により他の男性と性的関係にある男性同性愛者の献血が禁じられていたが、厚生省からの要請を受け、15日、ラカジェ・ポウ大統領は男性同性愛者の献血を可能とする政令に署名した。今次政令は、当該規定成立からの時間の経過を考慮し、差別的または時代遅れな規定を現代に適合させる必要があるとしている。また、輸血医学規定更新のための名誉委員会の設置を定義しており、厚生省の代表が同委員会の議長を務める他、感染症研究に関連する専門家及び研究所の専門医で構成される。

5 ラカジェ・ポウ大統領が2020年に最も影響を与えた50人の1人に選出

ラカジェ・ポウ大統領はブルームバーグが発表した「2020年に最も影響を与えた50人」の1人に選出された。新型コロナウイルスに対する迅速な措置と、強制的隔離措置ではなく責任のある自由に訴えたことが強調された。南米地域から同リストに選出されたのは同大統領のみで、政治分野では同大統領の他、スーダン大統領、アブダビ皇太子、台湾総統の3名が選出された。

【外交】

1 ブスティージョ外務大臣のEU及びロシア訪問

11月25日～12月10日にかけてブスティージョ外務大臣はEU及びロシアを公式訪問したところ、主な会合は以下のとおり。

(1)ラブロフ露外務大臣との外相会談

1日、ロシアを訪問したブスティージョ外務大臣は、ラブロフ露外務大臣と外相会談を実施した。両外務大臣は優れた二国間関係及び経済貿易に関する進展及び歴史・文化的関係を強調した。また、二国間の議題及び様々な地域・国際問題について協議した。ブスティージョ外務大臣は、特にConaprole社のバター製造工場からの輸出再開を可能にしたラブロフ露外務大臣の働きかけを強調した。また、貿易強化の手段として両国の植物検疫監視サービス間の恒久的な協力の重要性が強調され、交渉の最終段階にある様々な二国間協定や議定書について署名プロセスを加速化することの重要性が言及された。

(2)チャブシュオール・トルコ外務大臣

ブスティージョ外務大臣はイスタンブールの空港での乗り継ぎの際、チャブシュオール・トルコ外務大臣からの電話を受けた。同対話の中で、モンテビデオにまもなくトルコ大使館を設置する予定である旨チャブシュオール・トルコ外務大臣から伝達があった他、メルコスール・トルコ・FTAの可能性について情報共有した。

(3)ウィルメス・ベルギー副首相兼外務大臣

3日、ブスティージョ外務大臣はソフィー・ウィルメス・ベルギー副首相兼外務大臣を表敬した。両外相は両国を繋ぐ良好な二国間関係を歓迎し、特にそれぞれの企業及び投資の可視性と戦略的重要性について協議した他、地域の政策課題や多国間主義の共通のアプローチについて一致した。また、メルコスール・EU・FTA、新型コロナウイルス感染症危機及びパンデミックによる社会経済的影響について意見交換を行った。

(4)ジョセップ・ボレルEU外務・安全保障政策上級代表

4日、ブスティージョ外務大臣は、ジョセップ・ボレルEU外務・安全保障政策上級代表と会談した。両名は両地域間の結びつきを強化するメルコスール・EU・FTAの戦略的重要性を強調し、署名の早期実現に向け最高レベルで協定を推進する必要性について合意した。

(5)ドンブロウスキス欧州委員会副委員長

4日、ブスティージョ外務大臣はバルディス・ドンブロウスキス欧州委員会副委員長と面談し、メルコスール議長国としてのウルグアイのメルコスール・EU・FTA承認の早期実現に全力で取り組むことへの強い関心を強調した。ドンブロウスキス欧州委員会副委員長は、同FTA承認・批准のためのコミットメントを強調し、EU側交渉担当者に保留中の問題を早急に終えるよう指示すると述べた他、持続可能な開発に関する懸念に対応するため協定交渉を再開することなく追加声明に共同で取り組む必要があると述べ、両当事者の作業基盤として2021年初頭に草案第1案を作成することで一致した。

(6) リーステール外務省貿易担当大臣

6日、ブスティージョ外務大臣はフランク・リーステール外務省貿易担当大臣と面談し、政治、貿易、投資、文化、教育など複数の分野における二国間議題を詳細に検討した他、メルコスール・EU・FTA署名実現のための段階について意見交換を行った。

(7) アズレー・ユネスコ事務局長

7日、ブスティージョ外務大臣はオドレー・アズレー・ユネスコ事務局長を表敬し、様々な案件について意見交換を行った。

2 ウルグアイ産牛肉から新型コロナウイルスが検出

中国でウルグアイ産牛肉から新型コロナウイルスが検出されたとする6日の報道について、7日、ウリアルテ農牧水産大臣は、右報道があったことは事実であると認めるも、ウルグアイでは当該製品から新型コロナウイルスは確認されておらず、2019年12月にウルグアイから出荷、2020年3月に中国到着という状況を鑑みると、同製品のウルグアイ国内での汚染は実際的に不可能であると指摘した。また、同農牧水産大臣はウルグアイ出発後の輸送過程で梱包にウイルスが付着した可能性が高いとの見解を示した。

3 ベネズエラ議会選挙を批判

7日、ウルグアイ外務省はプレスリリースを発出し、6日にベネズエラで行われた議会選挙が民主主義の原則と価値観に従って実施されず、ベネズエラ国民全体の意思が投票に忠実に反映されるための透明性の最低限の保証が欠如していたとして批判した。

4 第2回ウルグアイ・チリFTA管理委員会会合

9日、第2回ウルグアイ・チリFTA管理委員会会合がオンライン形式で実施された。同会合は両国の技術作業に基づき特定された二国間の優先事項を推進する目的で実施された。同委員会はフリーゾーンとロジスティクスに焦点を当て、原産地規則に関する作業に取り組んだ他、知的財産権、二国間・多国間交渉、貿易協定の実施及び普及に関する相互訓練セミナー開催に向け協働することで合意した。また、二国間協議では通信及びデジタル経済の分野についても言及された。

5 第57回メルコスール首脳会議

16日、第57回メルコスール首脳会議がオンライン形式で開催され、メルコスール加盟国及び準加盟国の首脳及び代表者は各国及び地域の状況について協議した。ウルグアイからはラカジェ・ポウ大統領が出席し、ブスティージョ外務大臣、アルベレチェ経済財務大臣が同席した。今次首脳会合で議長国がウルグアイからアルゼンチンに交替した。

ラカジェ・ポウ大統領は、世界的な衛生危機に対して保護主義政策に陥る危険性について指摘した他、メルコスール・EU・FTAに関して、ウルグアイ議長国期間中に望んでいたとおりには進捗しなかったことを認めた他、第三国との交渉について、イスラエルと韓国とのFTA交渉における進捗を強調した。また、2021年がメルコスール創設30周年であることに言及し、将来の見通しを記念するものになることを望んでいる旨表明した。

ウルグアイ議長国の報告を行ったブスティージョ外務大臣は、メルコスールの議題の進捗状況を強調し、特に電子商取引のプロトコルの承認を取り上げ、メルコスールの輸出業者、消費者、サービスプロバイダーにとって無数の機会が開かれると述べた。また、メルコスール統合計画に関して、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けていた全ての交渉がウルグアイ議長国期間中に再開し、第三国との関係が強化されたことを強調した他、メルコスール・EU・FTAに関しては、アルゼンチンが議長国を務める期間中の実現に向けた交渉が進行中であることを示した。

首脳会議後の記者会見で、アルベレチェ経済財務大臣はメルコスール・EU・FTAの進捗を強調し、アルゼンチン議長国期間中に実現したいという政府の希望を表明した。また、メルコスールの内部議題の進展を強調した他、第三国との貿易に関して、ウルグアイはメルコスール加盟国に対しメルコスールの柔軟化を検討することを提案したと述べた。

6 共和国大学とラプラタ川管理委員会の協力連携協定が調印

16日、共和国大学・ラプラタ川管理委員会(CARP)間の協力連携協定が、ロドリゴ・アリム共和国大学学長とアレム・ガルシアCARP委員長により調印された。両名は、特に環境監視とラプラタ川の水質に関して、科学分野におけるタスク調整を容易にし、学術的貢献を導く目的で制度的つながりを確立する同協定の重要性を指摘した。

7 ラセンウジバエ根絶に向けた米国の支援

22日、農牧水産省はウルグアイにおけるラセンウジバエ根絶のための米国政府の協力について、米国政府からの20万米ドルの資金供与により、国際原子力機関(IAEA)と協同で害虫駆除のため放射線照射による不妊虫放飼技術の開発が可能となる旨発表した。ウリアルテ農牧水産大臣は、ラセンウジバエによる虫害は牛と羊の両方の牧畜業者に年間4千万～1億米ドルの損失をもたらし、ウルグアイの農業貿易に重大な影響を与える旨指摘し、根絶プログラムは4年間で根絶を達成することを目標とし、目標達成後は周辺国の行動に関係なく、ラセンウジバエの根絶国認定を維持する計画であると明らかにした。また、同席したブスティージョ外務大臣は、同問題及び国レベルでの影響を十分に認識していると述べ、持続的な効果を得るために近隣国が同プログラムに参加することを望んでいると述べた。

【要人往来】

○往訪

●11月25日～12月10日、ブスティージョ外務大臣のEU及びロシア訪問

○来訪

●特になし